

各位

会社名 株式会社シーボン
代表者名 代表取締役社長 執行役員 崎山 一弘
(コード番号: 4926 東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員 管理本部 責任者 松本 裕右
(TEL: 03-3404-7501)

第2四半期(中間期)業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2025年5月13日に公表いたしました2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)連結業績予想と実績値の差異(2025年4月1日~2025年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,522	92	95	34	7.96
実績値(B)	4,610	125	144	115	26.94
増減額(B-A)	88	32	48	81	
増減率(%)	1.9	35.4	50.9	238.4	
(ご参考) 前期連結実績 (2025年3月期第2四半期累計)	4,311	△11	△12	△61	△14.28

2. 差異の理由

当第2四半期(中間期)の連結業績実績値は、2025年5月13日に公表いたしました前回発表の業績予想に対し、売上高及び各段階利益のすべてにおいて上回る結果となりました。

この差異の主な理由は、直営店舗における売上高が予想以上に好調に推移したことによるものであり、新規顧客におきましては、例年イベントが増加する時期に合わせて集客活動を活発に実施したことや、「60th Anniversary プロジェクト」等のブランディング施策が奏功し、来店数が大きく増加いたしました。さらに、接客教育の強化や新規顧客向けキャンペーン等の施策推進により、購入単価と契約率も向上し、売上を大きく牽引いたしました。一方、既存顧客につきましても、ロイヤルカスタマーの醸成施策の進展や、新製品発売が奏功し、購入単価が向上いたしました。

この結果、売上高が当初予想を上回ったことに加え、販売費及び一般管理費が概ね予定通りの水準で推移したことから、各段階利益も大きく上回る結果となりました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、下期における「60th Anniversary プロジェクト」等のブランディング施策への追加投資の可能性や、個人消費の低迷継続リスク、原材料費高騰の可能性といった外部環境を総合的に勘案し、現時点では2025年5月13日公表の業績予想を据え置きます。今後、業績予想の修正が必要と判断される場合は、速やかに公表いたします。

以上